

「みのり」100号記念に寄せて

おおいそ学園薫風会(職員OB会)会長 岡本 忠之

広報誌「みのり」100号記念の報と共に、巻頭言の出筆依頼を受け、大変光栄に思います。

この広報誌は、学園内の様々な活動などを広く発信するものですが、今後もすべからく子ども達の視点に立って日常が語られること、また、児童福祉及び学校教育の関係法令に照らし、学園運営がより発展されることを願う次第です。

さて、私が学園に勤務していた当時、「みのり」の巻頭言に「往還という言葉」と題し、子ども達に対する想いを伝えたことがあります。

この往還とは、「生命を終えてこの世を去り、光につつまれて浄土に迎えられた者は、永久にそこにじっとしているわけではない。そこでこの世の疲れを癒し、魂の傷を癒した者は、やがて再び浄土を離れ、この悩み多き現世に還って来るという。何の為に還ってくるのか。それは、かつて自分が体験したであろう苦しみや、悲しみ悩みに呻吟している人々に手を差し伸べて、希望と喜びを与えるために戻って来るのだと言うこと」らしいのです。そうであれば、往還の辻でじっと子ども達の行く末を見つめる防人も必要であろうと、古色然とした防人を自分に置き換え、想いを馳せました。

子どもの支援にあたっては、ビクトル・ユゴー著「ああ無情」ではありませんが、烙印を捺された者の思うに任せないじれったさに見合った教育、子どもの琴線がどこにあるかを探ることの大切さを思います。学園職員の方には今後も、罪と罰を自分のものとして咀嚼し、子

どもの心を守り育てることをお願いしたいと思います。

また、私の夢を語るとすれば、共に生活をすする学園が「措置」だけでなく、子どもが自ら選択し利用する施設への展開を期待しています。秋の収穫祭への行事参加だけでなく、薫風会主催で継続実施されている退所生との交流野球大会やミカン地修復への取組みなど、子どもの居場所として明るいイメージで語られることは朗報です。

折しも、私が学園に勤務していた1990年代。阪神・淡路大震災で被災した子ども、オウム真理教事件に伴う信者の子どもの教育受け入れについても検討された時代です。また、その中で神戸連続児童殺傷事件も発生しました。子ども達の関心は高く、犯行声明文に記されていた「薔薇」の漢字を正しく書き取れる程でした。心を洗い清めてもらいたいとの願いから、朝礼時の講話に、詩人・坂村真民さんの「二度とない人生だから」を繰り返し読み聞かせたところ、子ども達自ら朝礼台で読んでみたいと申し出があったことなどを思い出します。

最後に、広報紙第12号にも記載した、私の座右の至言“真民(しんみん)五訓”をあらためて記します。

ベ	ポ	グ	フ	ク
コ	ヤ	ラ	ラ	ヨ
ペ	ボ	グ	ラ	ク
コ	ヤ	ラ	ラ	ヨ
する	する	する	する	する
な	な	な	な	な

生沢分校通信

校外学習平成30年5月16日実施

☆ 横浜校外学習 (中学1・2年)

1, 2年生の遠足は横浜方面に行きました。

最初は帆船日本丸を訪問しました。1930年に建設された日本丸の内部は大変歴史を感じさせるもので、現役時代に乗船されていた解説員の方が丁寧に案内して下さったこともあり、生徒達は興味深く見学していました。

次に、ランドマークタワーの69階展望フロア、スカイガーデンに上りました。地上から273mの展望フロアから、眼下に広がるミニチュアのようなみなとみらい地区や東京都心の景色を気持ちよく眺めました。

昼食は同タワー2階のマクドナルドでとりました。事前に特活の時間で各自が決めたメニューを注文して食べました。中には量が多く、完食するのに必死な生徒もいました。

最後は、カップヌードルミュージアムを訪れました。まずはマイカップヌードル作り。カップに文字やイラストを描き、お好みの具材を選び完成！その後、即席麺の歴史に関する展示を見学し、チキンラーメン作りを体験しました。袋の装飾はもちろん、何度も練って畳んでの生地作り、麺の裁断と味付けなど、90分に亘る様々な工程に一生懸命取り組んでいました。

多少テンションが上がることは見られましたが、ルール・マナーを逸脱することなく、楽しく安全に1日を過ごすことができました。

1・2年学年主任 勝木 慎也

☆ 江ノ島校外学習 (中学3年)

今年も3年生は江ノ島方面に行ってきました。例年シーキャンドルの方へと行くのですが、今年は少し趣向を変えて、岩屋へ降りてみました。5月半ばでも夏日のような暑さの中、朱の鳥居を右手に折れ、木陰の続く道を進みました。風が強く、眼前に広がる「うさぎが飛ぶ」海を眺めながら急な階段を下りていくと岩場に出て、岩屋へと進みました。二つの洞窟内に入りましたが、外とは打って変わった冷たい空気に、ひと時の涼を取ることができました。前年の台風の影響で、校外学習直前まで岩屋は閉鎖されていたためか、本来祀られている竜神様は「お出かけ中です」との札が出ており、お参りできず残念でした。そこから再び急な階段を上り、億津宮の前で一休み。参道に降りて、お

土産を買いに歩き回りました。限られた予算の中で、誰に何を買おうかと、一人ひとりが真剣に悩んでいたのが印象的でした。

駅前のファーストキッチンで昼食をとり、お腹も満たされてから新江ノ島水族館へ。まずはイルカショーを全員で観に行きました。水がかかることを想定して、タオルを持参していた生徒たち、最前列を陣取り、見事イルカに水しぶきをかけられ、想像以上の濡れっぷり。それでもみんな、なんだか嬉しそうな表情を浮かべていました。その後は分散しての館内見学。それぞれ自分が心を惹かれる生物を見て回りました。

ルールを意識してしっかり行動し、予定通りに行動することができ、さすが3年生、と頼もしさも感じられた校外学習でした。

3年学年主任 成田 麻紀

☆ 小田原校外学習 (小学部)

5年生1名、6年生2名、職員2名で出発しました。バス停やバスの車内でもマナー良く移動していました。電車に乗る前には、出発前に寄ってきたはずなのに、駅のトイレに駆け込む姿もみられ、楽しみと緊張もあったのではないのでしょうか。電車に乗ったところで小さなハプニング。車掌さんに確認して教わった電車が当初予定していたダイヤと違って、箱根登山鉄道の乗り換えはやや小走りになってしまいました。

初めの目的地の鈴廣かまぼこの里では、ちくわ作り体験しました。魚のすり身を竹串に巻き付けるのですが、これが意外と難しい。しかし小学生3名はめげずに完成させ、焼き立てをパクリ！出来立てを食べるのはめったにできない体験で、自分で作ったちくわの味に大満足でした。生命の星地球博物館では、最初に昼食をとりました。小学部で事前に決めていたメニューを券売機で購入しました。まだ体の小さい子も大盛りを注文して完食していました。展示コーナーの見学では、離れ離れになることなくじっくりと見入っていて、見たこともない昆虫、動物、鉱物などの展示を楽しんでいました。最後にお楽しみのお土産コーナーへ。限られた予算の中でそれぞれ気に入ったお土産を購入することができました。

小学部 鈴木 進吾

生沢分校通信 運動会

校内水泳大会が終わると、運動会の練習が始まりました。今年度も昨年度に引き続き紅白対抗の2チーム編成の中、練習を積み重ねてきました。

練習当初は仲間同士の連携が取れず、苦勞をしていました。それでもそれぞれの種目に出場する子どもたちが協力して作戦を試行錯誤しながら本番を迎えました。

当日は天候に恵まれず、体育館での開催となりました。各関係機関の方や保護者の方々が見守る中、始まった運動会。種目も少なくなった運動会でしたが、子どもたちは練習の成果以上の実力を発揮し、運動会を大いに盛り上げ、そして来校して下さった方々を楽しませてくれました。

気持ちのこもった演技を子どもたち一人一人が見せてくれました。(瀬戸)

中学3年生 修学旅行

1泊2日で大阪・京都方面へ。バイクンク昼食を堪能した後、USJへ。「行きたくない」などと言っていた人が、入場門付近で「楽しそう！」と声を挙げたことに一安心。待ち時間の長さもなんのその、それぞれに楽しんでくることができました。宿では全員で一つの部屋。普段と異なる環境に、少し興奮気味の様子でした。

2日目は、北野天満宮、金閣寺、清水寺を訪れました。北野天満宮では合格祈願。参道の「牛」にもたくさん触れていました。ものすごい人ごみにもまれながら、金色に輝く金閣寺に驚嘆し、清水寺の「音羽の滝」では、どの水を飲むか、わいわいと騒ぎながら順番を待っていました。

2日間、しっかりと行動し、良い思い出作りができました。(成田)

小学6年生 修学旅行

小学生3人教職員3人でディズニーリゾート2日間の旅へ。1日目はディズニーランド。「絶叫系は乗りたくない」と言っていた子どもたちでしたがスプラッシュマウンテンに挑戦！涙目になる子もいましたが大興奮でみんな達成感いっぱいでした。思いのほか空いていたのでその後もアトラクションを楽しみ、夕食のレストランへ。黄身がミッキーの形の目玉焼きにびっくり！ホテルに帰っても興奮気味の子どもたちでした。

2日目はディズニーシーへ。朝からトイストーリーマニア、インディージョーンズなどたくさんのアトラクションで大興奮！また、とてもきれいに掃除をしたり、いつも笑顔で対応したりしてくれるキャストの心配りにもふれ、たくさん笑って、あたたかい気持ちになることができた夢と魔法の国での2日間でした。(進藤)

小学5年生 中学1・2年生 校外学習

本年度2回目の校外学習も、横浜方面に行きました。

最初に横浜駅近くの日産グローバル本社ギャラリーへ。中はGT-Rを筆頭に人気車が勢揃い。運転席に乗車したり、間近で写真撮影したりしてみんな興奮気味でした。

その後新横浜に移動し、駅近くのマクドナルドにて昼食。前回の経験を活かして無理なく食べられる量を注文し、余裕をもって食べていました。

昼食後はバスで移動し、崎陽軒横浜工場を訪問しました。シウマイの歴史や工夫についての説明後、弁当の製造工程を見学しました。製造ラインのスタッフ人数の多さや、紐かけの速さに圧倒されていました。最後は出来立てのシウマイを試食し、みんな大満足！

ルール・マナーを守り、スムーズに行動することもでき、合格点をあげられる内容の校外学習となりました。

(勝木)

みのり100号を迎えるにあたり、以前おおいそ学園で児童と生活を共にした職員と、昨年おおいそ学園を退所した児童からメッセージをいただきました。

良く泣き、良く笑い、よく食べました

おおいそ学園は、2回の異動で11年間お世話になりました。学園と離れた今、「おおいそ」という地名、名前を聞いただけで、気持ちが高ぶってしまいます。

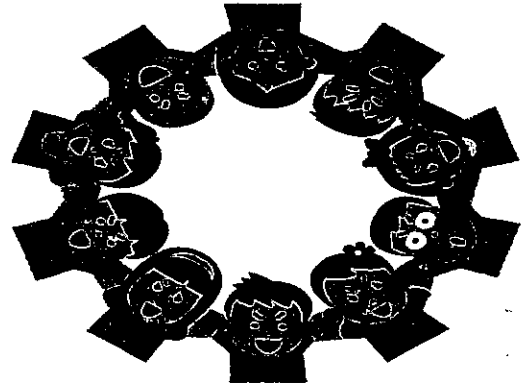
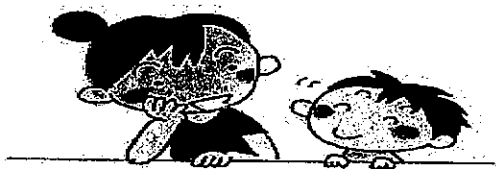
初めての異動の時は、子どもたちの使う専門用語が？だったり、プレゼントしてくれたものが【失敬】してきたものだったり。

2回目、少しは職員らしくと思っではみたものの、年齢を重ねたせいか、嬉しくても、悲しくても、悔しくても、涙腺壊れたかというくらい止まらない涙、職員なのに笑いすぎて職員に叱られたり、背は縮むのに胃が大きくなったりの日々でした。

いつも側で、「松崎さ～ん！！」と、たくさんの愛情を注いでくれた可愛い子どもたちとの幸せな毎日。成長し、仕事、子育てに励んでいる退所生の姿が、今の私を支えてくれています。

皆様のご活躍を心からお祈りしています。

神奈川県中央児童相談所 松崎 めぐみ



「来年度こそは…」

「また、おおいそ学園に戻ってきたいと思っています」と離任式であいさつしてから、もう6年たってしまいました。私は、桂寮で6年、梅寮で2年、寮職員としてお世話になりました。

おおいそ学園での日々を振り返れば、先輩職員の「トラブルが起こるのが普通。平穩に過ぎた日が特別」という言葉通りの、毎日何かが起こる生活。目の前で起こっていることにひたすら対応し続ける日常が思い出されます。私は現在、児童相談所におりますが、学園を離れてみると、それこそがおおいそ学園の魅力であり、強みなんだと痛感しています。

おおいそ学園は、子どもにとって、大人がとことん付き合ってくれる経験ができる、非常に得難い貴重な場所だということです。失敗を繰り返しても付き合ってもらえる。その失敗からも何かを得るチャンスがもらえる、そんな経験ができる場所は、そうそう得られるものではありません。これからも、そういう場であり続けていただきたいと願いますし、そんなおおいそ学園に、また私も戻りたいな、と毎年年度末になるとドキドキしています。

神奈川県中央児童相談所 友田 薫

おおいそ学園で学んだこと

おおいそ学園に来た時は中学2年生でした。当時は「なんでこんな所に…」という思いがありました。寮の人と話すこともできず、部屋に籠ってばかりいました。その時は自分の課題について考えもしませんでした。

野球部の活動が始まりました。自分は野球経験があり、「余裕だろ、初心者の集まりだし」と思っていた中、ピッチャーとして指名を受けました。

初めての練習試合。「まあテキトーに抑えられるだろう」という気持ちでした。ところが、途中から制球が全くできなくなり、アウトを取れる場面で仲間と連携できず、ミスが何回も重なってしまいました。圧倒的な差で負けてしまいました。

試合後、様々な人に、敗因は自分にあると言われ、「なんで俺なんだよ」と不貞腐れていました。その夜、職員さんのところへ行き、その不満を強い口調で話したところ、本気で怒られました。自分の欠点を片っ端からすべて言われました。そこでようやく自分の弱さを知ることが出来ました。

コミュニケーション不足で仲間との連携が上手くいかずエラーが重なり、自分の努力不足のせいで負けてしまったということ、それと同時に自分の傲慢さ、未熟さに初めて気づくことが出来ました。

それからは、言葉の選び方や人との話し方を考えるようになり、部活動の練習でも諦めずにやり遂げようという気持ちが芽生えました。学校では話す人が増え、相手から話しかけてくれることも多くなりました。部活動では真面目に練習をし、指導者からも褒められることが増え、実際の試合でも安定して投

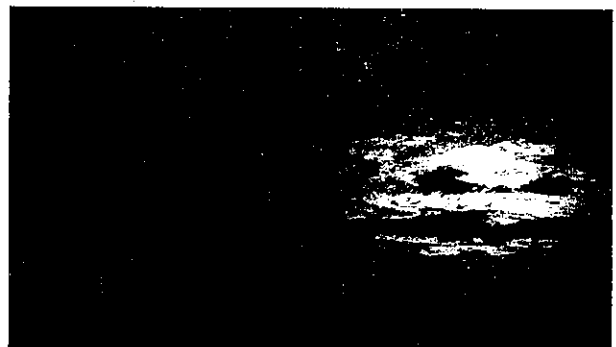
げることができるようになりました。自分の中で思いを変え、行動に移した途端、様々なことがよくなりました。その結果、夏の野球大会では全国大会3位になることができ、その後の部活動でも周りとのコミュニケーションにより大きく成長することが出来ました。

自分の大きな欠点や思い違いに気づき、それを改善しようと考えられるようになったのは、こんな自分に呆れることなく支えてくださった職員の皆さん、共に色々な経験をしてきた学園の友人の支えがあったからだと思います。まだまだ未熟ではありますが、ここで学んできたことを忘れず、常に自分の中で考えを広げていきたいと考えています。

平成30年3月退所生 I.H

入所当時 I 君は目つきの鋭い寡黙な少年でした。ボソッと余計な一言でほかの子とのトラブルも多々ありました。そんな I 君の全国大会での雄姿！目に焼き付いています。

退所後は高校へ進学し軽音楽部に所属。とても充実した高校生活を送っているそうです。



園外行事、大会報告

県児童福祉施設野球大会

8月6日(月)・7日(火)

横浜市 保土ヶ谷野球場



今年は何回か大会で1回戦敗退と悔しい思いをし、県大会でリベンジをする気持ちで臨みました。おおいそ学園は近年、準決勝、決勝までは進出しますが、なかなか優勝には手が届きませんでした。今年こそはという気持ちで、関東大会後も練習試合を沢山行い、チーム力を高めて挑みました。

県大会は当初3日間の日程でしたが、悪天候のため2日間に短縮されました。1日目から学園の児童、職員のOBがたくさん球場に駆けつけてくれて、児童の全力プレーに大きな応援をして頂きました。そのおかげもあり、1日目、2日目と接戦を勝ち進み、決勝まで駒を進めることができました。決勝ではその日3試合目となる試合で、疲れもあると思う中、最後まで皆が全力プレーを行いました。結果は惜しくもあと一歩及ばなかったですが、最後まで一生懸命に取り組んだ児童は、胸を張って学園に戻ってくる事が出来ました。

金城



第57回関東少年水泳大会

8月24日(金)

栃木県 温水プール館



野球部、水泳部の二本柱でおおいそ学園での部活を取り組む子どもたちにとって、関東少年水泳大会が夏の夏を締めくくる行事となりました。

今年度は栃木県立温水プール館にて大会が行われ、おおいそ学園からは11名の児童が参加しました。

予選を突破して決勝に進む児童も多く、夏の厳しい練習に取り組み、お互いに切磋琢磨した児童たちの顔に不安はなく、追い抜かれても最後まで応援し、また、泳ぎ切った後の表情は皆、全力を出し切ったはれやかな表情でした。

惜しくも1点差で4位でしたが、誰一人として仲間を責めることや叱責するようなこともなく、健闘を称えあう姿が見られました。

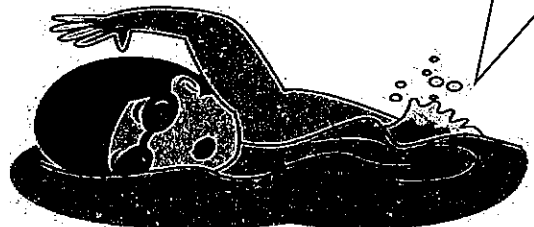
結果からも児童たちの姿から学ぶことも多い大会でした。

湯山

主な成績

- 個人 背泳ぎ 50メートル F君 1位
- 個人 自由形200メートル E君 1位
- 個人 平泳ぎ200メートル K君 2位
- 団体 メドレーリレー 3位

総合
4位



神奈川県児童福祉施設駅伝大会**平成30年11月17日(土) 横浜こどもの国**

今年もこどもの国で県内の児童福祉施設が参加する駅伝大会が開催されました。今回で51回目となる歴史ある大会で、県内の児童福祉施設を中心に37チームが参加しました。大会当日は、天候にも恵まれ、絶好の駅伝日和となりました。

今大会は、チームで3位以内、個人で区間賞獲得を目標に、9月から本格的な練習に取り組みました。全体の走力向上を目指した集団走、個人練習ではインターバル、変化走を取り入れました。

おおいそ学園からは2チーム12名の児童が参加し、総合3位と5位の成績を残すことが出来ました。個人でも小学生が区間賞を獲得することが出来ました。

大会を振り返り、好成績を残すことが出来たのは、児童一人ひとりが明確な目標を持ち、自ら考えて練習に取り組む事が出来ていたからだと思います。表彰式での児童の自信に満ちた表情がとても印象的な一日となりました。 堀野

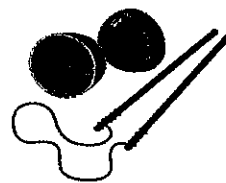
**第54回関東少年卓球大会****平成30年12月7日(金)****栃木県宇都宮市清原体育館**

大会当日となり、児童たち全員が一生懸命がんばり今年入賞した児童が2名いました。去年度の大会では惜しくも入賞を逃しており、児童たちも悔しい思いを持ちながらの今年の大会でした。

今回は入賞も果たして児童たちも喜びに溢れていることだろうと思いながら児童たちの様子を見ていましたが、児童たちは大会が終わり学園に帰ってくるまでしっかりとした態度を保っていました。

おおいそ学園で学んだ礼儀やマナーを最後まで意識して行動することが出来ており、私は改めて児童たちの成

長を見ることができたと嬉しく思いました。また来年度の大会で、児童たちが更に成長している姿を見たい!と密かに楽しみにしています。 太田

第53回関東少年文化祭**平成30年11月7日(水)****埼玉県上尾文化センター**

おおいそ学園では毎年夏休みに入ると、この文化祭に向け「ディアボロ」(お椀の底を合わせたようなコマをスティックに渡した糸で操る大道芸)の練習を始めます。野球や卓球と違い小学生は全員参加する行事なのですが、コマを操るのは非常に難しく、練習に集中できない日々が続きました。指導する職員にも次第に焦りの色が濃くなっていきます。ところが、10月も半ばになると途端に子どもたちにスイッチが入ります。それぞれが1ランク、2ランク腕を上げ、ステージで披露する技を変えたいと、あちらこちらから声が上がります。

そして本番当日。今まで見たこともない広い会場に腰が引けてしまう子もいました。午前中は、関東各地の児童自立支援施設の素晴らしい演技に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎます。

そしてリハーサル後、意気込んでステージに向かいますが、進行の遅れから30分以上廊下で待つことに…。落ち着かない子と、それを注意する子。ややピリピリしたムードが漂います。それでも子どもたちの度胸には驚かされます。大変な緊張の中ステージに上がりましたが、練習の成果を遺憾なく発揮し、失敗してもしっかりと前を向いて演技を続け、そして次々と大技を決めていきます。大きな拍手の中ステージを降りました。

すぐ閉会式となっていたため、演技直後の高揚感、充実感等余韻を噛みしめる時間がほとんどなかったのは少し残念でしたが、素晴らしいステージとなり、子どもたちの努力の結果として感謝でいっぱいです。 道場

第37回収穫祭

晴天 開催！

11月23日、おおいそ学園恒例の収穫祭が行われました。今年は晴天に恵まれ、子どもたちの保護者や関係機関、そして地域の方々も多数来園していただきました。

高等部では例年販売している大根や長ネギを中心に、今年は豊作であった銀杏や寄付のあったサツマイモの販売等を行いました。ただし、大根はアブラムシ、長ネギは台風24号にて全て倒されてしまうことがあり、収穫量としてはいまひとつでもありました。

収穫祭は竹細工や、焼き鳥の出店等は様々なボランティア団体の方に支えられて運営を行っています。また、例年参加していただいている「かなぎ座」さんによる和太鼓については大変好評で、寒さを吹き飛ばすようなパフォーマンスが見られました。終盤には、これまた恒例となっている、子ども達のディアボロの演技が披露されました。今年はステージを本館前に変更しましたが、狭い場所である分、観客との一体感が生まれたようにも感じました。毎年勤労感謝の日に開催される収穫祭。子ども達の心に残る貴重な時間であったと確信しています。

高橋



《行事予定》

2月27日

公立高校合格発表

3月14日

分校卒業式

3月25日

分校終了式



編集後記

いつも広報誌「みのり」をご覧いただきありがとうございます。

今回の特別号は、100号記念として、沢山の行事を載せました。どの行事も子ども達が一生懸命、日々の生活に取り組み挑戦していました。子ども達の活躍、経験を少しでも多く皆様に伝えられたらと、作りながら思い出し、微笑む次第です。

今後とも、おおいそ学園の取り組みについてご理解・ご協力をお願いいたします。